目　次

1部　存　在――夜空には何が「ある」のか

1章　薬に効果が「ある」といったときの「ある」について ……2

1.1節　確かにあるはずなのに、触れることができない何か ／ 2

【時間を想うとき】【過去という存在の意味を規定するもの】【夜空にきらめく星々、あなたにはどう映るだろうか】

1.2節　差異化という補助線 ／ 11

【何かを理解するとはどういうことなのか】【差異化と差別感情】【「生きる」と「生活する」の差異】【差異は実在しない。それは関心と認識の問題】

2章　薬剤効果の感覚質 …… 23

2.1節　数値に表せない薬の効果 ／ 23

【現象を救うこと】【気持ちを処方すること】【薬剤効果の多因子性モデル】

2.2節　薬の効果を編み上げるもの ／ 33

【薬の efficacy（有効性）と effectiveness（効果）】【プラセボ効果とノセボ効果】【ピグマリオン効果とゴーレム効果】【ホーソン効果】【薬の厳密な効果、その存在割合を想う】

3章　統計世界と生活世界 …… 43

3.1節　偶然と必然の狭間で揺らめく科学的世界像 ／ 43

【それは偶然なのか、必然なのか……】【統計学的仮説検定】【統計学的有意とはどういうことか】

3.2節　薬の効果と社会的影響 ／ 51

【医学的介入のインパクト】【喘息患者に対する吸入用ステロイド】【現代社会における胃潰瘍】【心房細動に対する抗凝固薬】【薬の使用動向と社会的影響】

3.3 節　薬の効果の極小性 ／ 58

【薬剤効果の極小性】【ワクチンの効果を考える】

3.4 節　文脈により変化する薬の効果 ／ 65

【治療必要数】【NNT も表現にすぎない】【HPV ワクチンの効果を例に】

2 部　認　識――解釈に対する眼差し、あるいは正当性の論理

4 章　情報が表しているもの …… 76

【浮遊する関心や解釈】【情報の認知は表現の受容である】【数字は嘘をつかないが嘘つきは数字を使う】

5 章　メディアとバイアスとスピン …… 84

【医学雑誌というメディア】【論文情報もまた、ある種の表現】【情報妥当性としてのランダム化比較試験】【論文情報のスピン】【スピンが発生しやすい状況】【利益相反はスピンと関連するのか】【スピンを検討した研究論文にスピンはないのか？】

6 章　トンデモ医療と正統医療の線引き問題 …… 98

【分析的真理と総合的真理】【分析的真理は成立するか？】【機能していない意味の検証理論】【それは種類の差ではなく程度の差】【認識の論理的妥当性を支える専門性】

3 部　情　動――臨床をめぐる中動態

7 章　薬を飲まない・飲めない問題 …… 114

7.1 節　責任と意志を巡る中動態 ／ 114

【給食を食べることと薬を服用すること】【医療機関を受診するという意志の実在】【「能動」/「受動」では表現できない世界】【中動態とは何か？】【なぜ中動態は消えたのか？】【意志の所在、その行方】

7.2 節　中動態と服薬アドヒアランス ／ 127

【コンプライアンスからアドヒアランスへの変容】【残薬発生高リスク患者の心理傾向】

8 章　生活の中の依存と医療 …… 134

8.1 節　ケアとセラピー ／ 134

【ケアとキュア、そしてケアとセラピーの対比】【セラピーとは何か】【依存先を作るということ】【セラピーをするのか、あるいはケアをするのか？】

8.2 節　ダメ。ゼッタイ。では救われない ／ 141

【依存と意志の問題】【ニコチン依存と禁煙】

9 章　ポリファーマシーを問題にすることの問題 …… 148

【呪いの言葉とポリファーマシー】【ポリファーマシーといわれる中で起きていること】【適切、不適切を選り分ける基準】【ポリファーマシー、見据えるその先は？】

4 部　生　活――医療と暮らしのはざまで

10 章　日常と非日常をめぐる変化の中で …… 164

【白猫の行く先……】【突如変化する健康状態】【薬との出会い、生活の変化】【健康を再定義する】

11 章　淡い西陽が差し込む午後の病棟で …… 174

【チオトロピウムという薬の効果】【チオトロピウムの害の懸念】【数字の解釈を巡る感情と情動】

最終章　「健康」に対する概念的諸連関の展開 …… 183

【健康関連行動の関数】【生活の豊かさから遠ざかる科学】【食事をすること、薬を飲むこと】【物語の共有可能性】